

国際先導研究公募説明会

2024年1月26日

独立行政法人日本学術振興会

kksi-kaken2@jsps.go.jp

本日の説明者

独立行政法人日本学術振興会 学術システム研究センター* 主任研究員
京都大学 大学院理学研究科 教授

北川 宏

独立行政法人日本学術振興会 研究事業部
部長

高見沢 志郎

*学術システム研究センターは、第一線の研究者による学術の振興に関するシンクタンクとして、学術研究における基礎研究や人材育成のあり方などについての多様な視点からの意見を活かし、日本学術振興会事業への様々な提案・助言を行うとともに、科研費等の審査システム・評価業務に参画しています。また、日本学術振興会と研究者コミュニティとの橋渡しの役割も担っています。(<https://www.jsps.go.jp/j-center/>)

本日の内容

国際先導研究の概要について

令和6(2024)年度公募における主な変更点について

質疑応答

1

国際先導研究応募事始

2024年1月

独立行政法人日本学術振興会

kksi-kaken2@jsps.go.jp

も

「公募要領」はこちらから
ご覧ください。

https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/35_kokusai/05_sendou/koubo.html

2

研究種目の概観

趣旨

- 優れた国際共同研究に対して**基金**による柔軟性の高い**大規模・長期間**の支援を実施することによる、**独創的、先駆的な研究の格段の発展**を目的とする。**我が国の優秀な研究者が率いる研究グループが、国際的なネットワークの中で中核的な役割を担うことにより、国際的に高い学術的価値のある研究成果の創出のみならず、当該学術分野全体の更なる国際化、研究水準の更なる高度化を目指す。**
- さらに、**ポストドクターや大学院生が参画**することにより、将来、国際的な研究コミュニティの中核を担う**研究者の育成にも資する**とともに、**国際共同研究の基盤の中長期的な維持・発展につながることを期待する。**
- 国際共同研究の中心的な役割を担うとともに**研究者の育成を支援する研究種目**であることから、**研究構想の学術研究としての意義のみならず、国際共同研究としての先進性・将来性・優位性等を評価し、課題を厳選の上支援を行う。**

応募総額

- 5億円以下

研究期間

- 7年間 ※最長10年間まで延長が可能

ほ

研究代表者は、「国際的に卓越した研究成果を挙げ、発信していること」を要件とします。

ほ

研究グループには、ポストドクター、大学院生(博士課程)が研究協力者として参画する必要があります。

ほ

「5億円」はあくまで上限です。様々な研究計画で応募することができます。

3

審査の観点

評定要素

A. 国際共同研究の意義・必要性

- 高い研究実績と国際ネットワークを有する研究者による応募であるか
- 高いレベルで国際共同研究の発展が期待できる海外の共同研究者が参画しているか。役割や研究内容が明確で、その必要性が十分に示されているか。また、準備状況は適切か
- 国際的な研究動向から見て、応募者グループの優位性を十分に発揮でき、国際的に高い評価を得る研究成果の創出が期待できるか
- 将来的に国際的な研究コミュニティの中核を担う優れた研究者の育成が期待できるか
- 研究期間終了後も国際的なネットワークの中核として継続することが期待できるか
- 国際的に重要な学問分野の創成や、当該学問分野の飛躍的な発展・展開、当該学問分野を通じた世界的な課題解決への挑戦、が期待できるか

C. 人材育成の適切性

- 国際的に優れた研究環境や国際ネットワークの機能等を活用した人材育成計画が具体的に示されており、その効果が期待できるか
- 研究組織内で有機的に連携し、多様性に配慮した人材育成の仕組みとなっており、優れた研究者の育成が期待できるか
- 若手研究者を、研究課題の遂行にとどまらず自立させるための取組が明確に示されており、その効果が十分に期待できるか

B. 研究計画の内容

(1) 研究課題の学術的重要性・妥当性

- 学術的に見て、推進すべき重要な研究課題であるか
- 研究課題の核心をなす学術的「問い」は明確であり、学術的独自性や創造性が認められるか
- 研究計画の着想に至る経緯や、関連する国内外の研究動向と研究の位置づけは明確であるか
- 本研究課題の遂行によって、より広い学術、科学技術あるいは社会などへの波及効果が期待できるか

(2) 研究方法の妥当性

- 研究目的を達成するため、研究方法等は具体的かつ適切であるか。また、研究経費は研究計画と整合性がとれたものとなっているか
- 研究目的を達成するための準備状況は適切であるか

(3) 研究遂行能力及び研究環境の適切性

- これまでの研究活動等から見て、研究計画に対する十分な遂行能力を有しているか
- 研究計画の遂行に必要な研究施設・設備・研究資料等、研究環境は整っているか

D. 研究機関の支援及び研究機関への還元方策の有効性

- 大規模、長期間の国際共同研究を推進する上で十分な研究機関の支援が期待できるか
- 若手研究者等が国際的な交流を行うに当たって効果的な研究機関の支援体制や支援内容が具体的に示されているか
- 大規模、長期間の国際共同研究に係る研究遂行や人材育成等の経験を適切に還元し、研究機関の更なる国際化に貢献する方策が具体的に示されているか

ぼ

審査は「評定要素」に基づき行われます。「評定要素」が判断できる研究計画調書を作成してください。

ぼ

審査意見書作成者・海外レビューに対しても、
✓ 国際共同研究の意義・必要性
✓ 研究計画の内容
✓ 人材育成計画の適切性など評定要素それぞれの観点からのコメントを求めています。

も

オリジナルはこちらからご覧ください。
https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/01_seido/03_hinsa/index.html

4

応募書類

研究計画調書の構成



令和6年度公募よりS-64(1)(2)のページ数を変更します。

様式	項目	事前 選考	意見 書	海外 ビュ-	書面 審査
Web入力	● 審査区分、研究課題名、研究組織等	○	○	○	○
S-64(1)	● 国際共同研究の枠組みと意義の概要(1頁) ● 研究計画の概要(1頁) ● 人材育成計画の概要(1頁)	○	○		○
S-64(2)	● Framework and Significance of International Joint Research(5頁以内) ● Research Plan(5頁以内) ● Plan for Fostering Early-career Researchers(4頁以内)		○	○	○
S-64(3)	● Application Requirements that PI must meet(2頁以内) ● CV(研究代表者)(2頁以内) ● CV(研究分担者)(2頁以内/人)	○	○	○	○
S-64(4)	● 所属研究機関からの支援の内容等(1頁) ● 人権の保護及び法令等の遵守への対応(1頁) ● 人材育成費の割合が7割の標準に満たない場合の対応(1頁)		○		○
Web入力	● 研究経費と各経費の説明等		○		○
S-64(L)	● Letter of Intent・CV(5頁以内/人)	○	○	○	○

ぼ

どの審査段階でどの書類が使用されるかにご留意ください。

ぼ

Web入力の「研究費の応募・受入等の状況」はPDF化されず、システムの画面のみの表示です(「書面審査」で審査されます。)

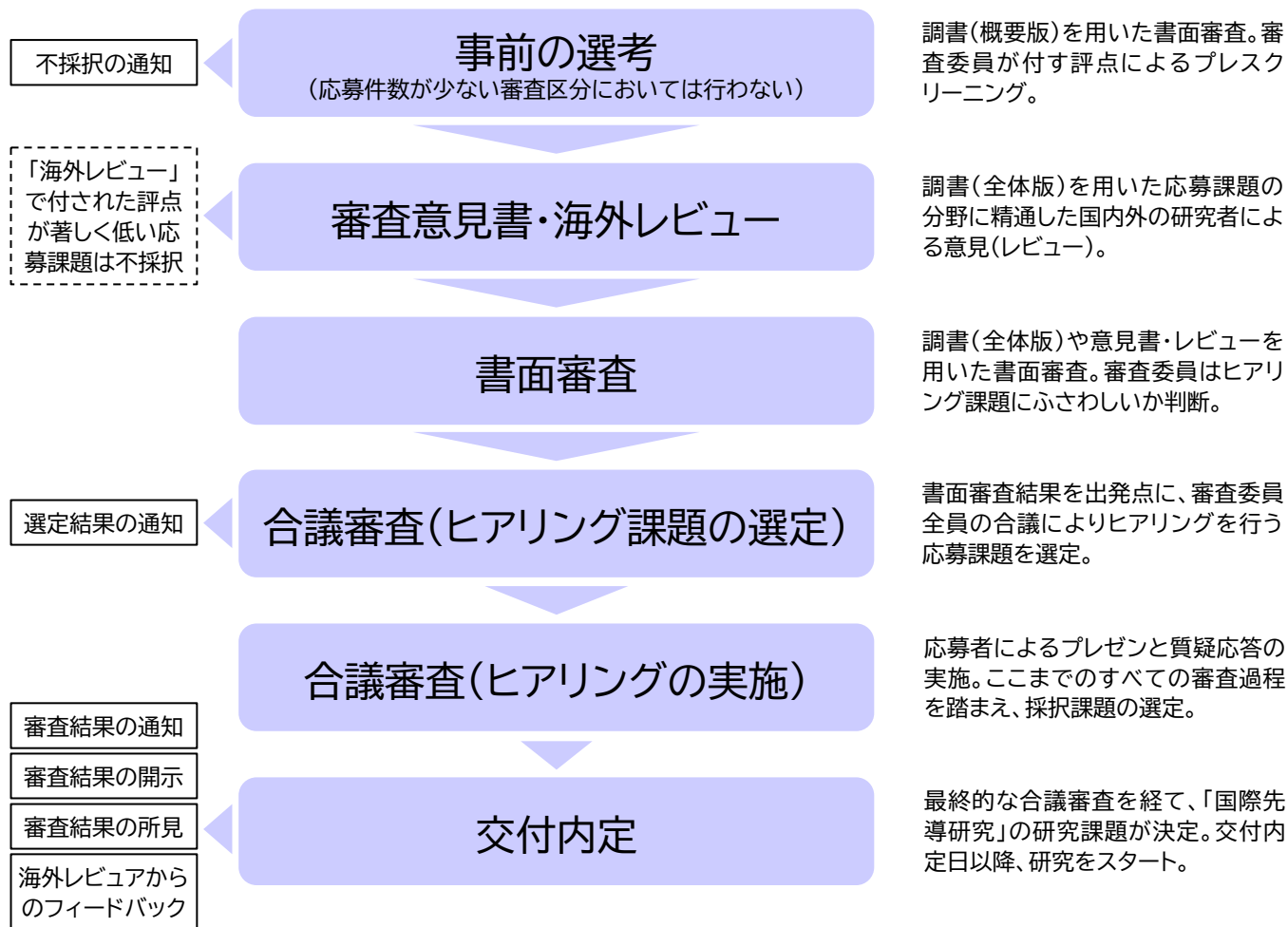
も

様式や作成要領はこちらからご覧ください。
https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/35_kokusai/05_sendou/koubo.html

5

審査の流れ

審査の進め方



ぼ

審査は審査区分「人文社会系」「理工系」「生物系」ごとに行います。幅広い分野の審査委員に伝える必要があります。また、応募内容の確認に当たっては、「最も関連の深い中区分」等も参考にします。

ぼ

審査委員は、JSPS学術システム研究センターの研究者が選考しています。また審査意見書作成者・海外レビューも同様に、かつ応募課題ごとに選考しています。

さ

「審査の手引」はこちらからご覧ください。
https://www.jps.go.jp/j-grantsinaid/01_seido/03_hinsa/index.html

6

研究計画と人材育成計画

研究計画と人材育成計画の考え方

- 研究計画と人材育成計画はこの種目の**両輪**です。
- 科研費の種目の一つですので、「学術研究」を支援します。研究計画においては、研究課題の**核心をなす学術的「問い」**を明瞭にしてください。また研究計画は、当該学術分野全体の更なる国際化、研究水準の更なる高度化を目指せる国際共同研究である必要があります。
- また同時に、将来、国際的な研究コミュニティの中核を担う研究者の育成にも資する人材育成計画を提案いただきます。**グループの一員**として研究に参画させ、海外への2～3年の**派遣計画**のほか、**自立に資する取組**を盛り込む必要があります。

国際先導研究が求める人材育成計画

- まずは国際先導研究の趣旨、評定要素、調書の指示書きに沿って応募書類を作成してください。
- 人材育成計画には**あらゆる角度や可能性**があると考えています。質、量、時間、場所などの観点から、研究計画同様、独自性、波及効果、実現可能性などを検討してください。
- また単なる派遣だけでなく、研究期間全体を通じて**将来を担う研究者となるための方策の立案**も考えられます。
- 研究機関とも具体的な支援計画について事前に相談してください。

ぼ

本趣旨を明確にするため、人材育成のための経費について応募総額の7割を標準としています。

ぼ

採択された課題には、「若手研究者が国際共同研究に参加しやすい研究環境を確保するための経費」「若手研究者のスタートアップ経費」を別途交付します。

7

国際先導研究ライブラリ

アクセス

- https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/35_kokusai/05_seidou/ichiran.html

採択課題一覧

- 過去採択された研究課題の一覧です。

研究概要

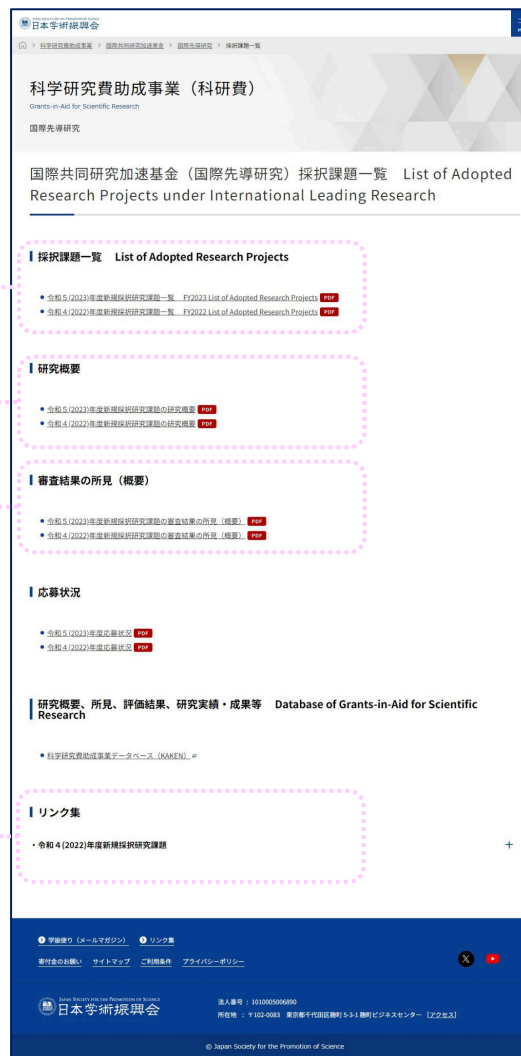
- 研究代表者に「この国際共同研究の重要性・面白さは何か」「誰がこの国際共同研究を行うのか」「どのように将来を担う研究者を育成するのか」をまとめていただいています。

審査結果の所見(概要)

- 審査委員が認めた「学術的意義、期待される成果」です。

リンク集

- 研究課題または研究室など。



こ

国際先導研究独自のFAQを公開しています。
https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/01_seido/05_faq/index.html

ぼ

各年度の「応募状況」(審査区分ごとの応募件数や採択件数)も公開しています。

ぼ

科学研究費助成事業データベースでは各年度の報告書に記載された研究成果を公開しています。

さ

各年度の「審査の総括」では、審査の経過や関連データを公開しています。
https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/01_seido/03_hinsa/index.html

8 令和6年度公募における主な変更点

応募書類について

- 本研究種目の趣旨の一つである「研究者の育成にも資する」研究計画を厳選するため、研究計画調書の構成を変更します。
- 「研究費の応募・受入等の状況」欄を研究計画調書のPDFファイル上では表示せず、審査に当たっては電子申請システム上に表示した内容を確認することとしました。なお、本欄は研究計画調書の一部であるというこれまでの取扱いに変更はなく、研究計画調書(Web入力項目)上の入力方法も変更はありません。

特別研究員(DC)の研究分担者としての参画について

- 令和5(2023)年度より、特別研究員(DC)が科研費の研究種目へ研究分担者として参画することが可能となりました。

質疑応答

ご質問をZoomのQ&A機能により受け付けます。ご質問のある方は、Q&Aを立ち上げ、質問を入力の上送信してください。

令和6(2024)年度

科学研究費助成事業

科研費

公募要領

国際共同研究加速基金（国際先導研究）

令和6(2024)年1月11日

独立行政法人日本学術振興会

(<https://www.jsps.go.jp/>)

令和6(2024)年度公募における主な変更点

(1) 応募書類について

○本研究種目の趣旨の一つである「研究者の育成にも資する」研究計画を厳選するため、研究計画調書の構成を変更します。

(「研究計画調書(添付ファイル項目)の作成・記入要領」参照)

○「研究費の応募・受入等の状況」欄を研究計画調書のPDFファイル上では表示せず、審査に当たっては電子申請システム上に表示した内容を確認することとしました。なお、本欄は研究計画調書の一部であるというこれまでの取扱いに変更はなく、研究計画調書(Web入力項目)上の入力方法も変更はありません。

(「研究計画調書(Web入力項目)の作成・入力要領」参照)

(2) 特別研究員(DC)の研究分担者としての参画について

○令和5(2023)年度より、特別研究員(DC)が科研費の研究種目へ研究分担者として参画することが可能となりました。

(「[Ⅲ. 応募する方へ 1. 応募の前に行うべきこと](#)」参照)

II. 公募の内容

1. 公募する研究種目

国際共同研究加速基金（国際先導研究）〔学術研究助成基金助成金〕

ア) 趣旨

優れた国際共同研究に対して基金による柔軟性の高い大規模・長期間の支援を実施することによる、独創的、先駆的な研究の格段の発展を目的とする。我が国の優秀な研究者が率いる研究グループが、国際的なネットワークの中で中核的な役割を担うことにより、国際的に高い学術的価値のある研究成果の創出のみならず、当該学術分野全体の更なる国際化、研究水準の更なる高度化を目指す。

さらに、ポストドクターや大学院生が参画することにより、将来、国際的な研究コミュニティの中核を担う研究者の育成にも資するとともに、国際共同研究の基盤の中長期的な維持・発展につながることを期待する。

国際共同研究の中心的な役割を担うとともに研究者の育成を支援する研究種目であることから、研究構想の学術研究としての意義のみならず、国際共同研究としての先進性・将来性・優位性等を評価し、課題を厳選の上支援を行う。

イ) 対象

以下の①及び②の両方を満たす研究計画。

※研究計画の立案に当たっては、国際共同研究の相手国の状況等を踏まえた実現可能性に十分留意してください。

- ① 「高い研究実績と国際ネットワークを有する日本側研究者」が、海外の研究機関に所属する国際的に極めて優れた研究業績を有する研究者（海外の共同研究者）と共同して行う国際共同研究であって、研究費を重点的に交付することにより、格段に優れた研究成果が期待される研究計画

※研究代表者は、責任著者となっている国際共著論文（2018年以降に発表したものに限る）が、被引用数Top10%国際共著論文に該当すること等、国際的に卓越した研究成果を挙げ、発信していることを要件とする。なお、分野の特性によっては、「国際的に卓越した研究成果」として以下の点などを示すことでも構わない。

- ・ 大型国際共同研究プロジェクトの代表者（活動全体に責任を持って中心的役割を果たすスポークスパーソンなど）の経験
- ・ 海外で刊行され、国際的に評価されている優れた学術書（2013年以降に発表されたものに限る）の著者

- ② 複数名の研究者（研究代表者、研究分担者）及び、当該研究者数の3倍程度のポストドクター、大学院生（博士課程）が研究協力者として参画する研究グループにより実施される研究計画

※本研究種目においては、より質の高い研究成果の創出や、将来、我が国を担い国際的な研究コミュニティの中核を担える研究者の育成にも資する観点から、人材育成のための経費について応募総額の7割を標準とする。加えて、研究計画の中に以下の取組を必ず盛り込むことを求める。

- ・ ポストドクター、大学院生（博士課程）の海外の共同研究者のグループへの派遣・交流（2年～3年を中心とする）に係る計画
- ・ ポストドクター、大学院生（博士課程）の自立に資する取組（例：ポストドクター、大学院生（博士課程）が独立した研究者からの助言を受けつつも一定の裁量と責任の下で行う研究に必要な経費の措置）

※ここでいう「ポストドクター」とは、常勤の研究職（注）に就いていない若手研究者、例えば博士の学位取得後8年未満（博士の学位を取得後に取得した産前・産後の休暇、育児休業の期間を除くと博士の学位取得後8年未満となる者を含む。）の方や39歳以下で博士号未取得の方を想定しています。

II. 公募の内容

(注) いわゆる教授・准教授・助教等のパーマネントポジションやテニユア職といった、任期の定めのない職のことを想定しています。フルタイムかパートタイムか、といった勤務形態の違いは問いません。

ウ) 応募総額 5億円以下

エ) 研究期間 7年間

※中間評価の結果を踏まえ、最長10年間までの研究期間の延長が可能

オ) 採択予定件数 おおむね5件程度(極めて厳選されたもの)

※国際共同研究の中心的な役割を担うとともに研究者の育成を支援する研究種目であることから、研究構想の学術研究としての意義のみならず、国際共同研究としての先進性・将来性・優位性等を評価し、課題を厳選の上支援を行います。

カ) 審査区分と審査方式

審査区分: 「人文社会系」「理工系」「生物系」

審査方式: 総合審査(書面審査及び合議審査)

(審査方法の詳細は「[II. 公募の内容 3. 審査等](#)」参照)

キ) Letter of Intent (同意書) について

応募に当たっては、海外の共同研究者(研究計画に対して責任を持てる者)に対して研究計画の内容や役割分担等を具体的に提示するとともに、役割に応じてそれぞれ独自に必要な研究資金の確保等を行うことについて同意を明確に得た上で、海外の共同研究者と研究代表者で確認された、所定の様式によるLetter of Intent (同意書)の提出を求めます。なお、同意書は研究計画調書の一部として審査に付されます。

ク) 本研究種目の創設の経緯等

本研究種目の設定の趣旨・基本的な考え方については、「国際共同研究支援の改善・充実について」(令和3年6月29日 科学技術・学術審議会学術分科会研究費部会資料1)に掲載されていますので、本資料を十分確認の上、研究計画を立案・作成してください。

URL: https://www.mext.go.jp/content/20210706-gakjokik-000016622_01.pdf

<留意事項>

- ・ 参画する全ての研究協力者も含め、国際共著による学術論文や国際会議での発表等により研究成果を創出し、国際発信を行ってください。
- ・ 採択研究課題の応募額を最大限尊重した配分を行う予定です。
- ・ 本研究種目においては、優れた研究チームによる国際共同研究への支援を通じ、優秀な若手研究者の育成を目指しています。そのため、「ウ」に示す研究費とは別に、以下の経費を措置する予定です。詳細は採択された研究代表者に別途案内します。

- ・ 本研究種目で支援する研究者グループに対し、若手研究者が国際共同研究に参加しやすい研究環境を確保するための経費
(1研究課題につき3,000万円程度を上限とし、採択状況等を踏まえて配分予定。)
- ・ 本研究種目の研究期間内にテニユア職の研究者(テニユアトラックを含む)として研究機関に採用された研究分担者(ポストドクター)、研究協力者(ポストドクター、大学院生)に対するスタートアップ経費
(1研究者につき300万円、1研究課題当たり2,100万円を上限とし、採用状況等を踏まえて配分予定。)

- ・ 採択された研究課題については、研究期間の5年度目に中間評価を行うとともに、研究期間終了年度翌年度に事後評価を行います。なお、中間評価の結果に基づき、必要に応じて研究期間の延長や、それ以降の研究経費の増額、減額、研究の中止等を行います。

Ⅱ. 公募の内容

- ・ 所属する研究機関の更なる国際化に資するため、研究活動を通じて得た国際活動に関する知見を、補助事業の実施に影響を及ぼさない限りにおいて積極的に所属研究機関に提供してください。

2. 応募から交付までのスケジュール

(1) 応募書類提出期限までに行うべきこと

研究代表者は所属研究機関と十分連携し、適切に対応してください。

日時	研究代表者が行う手続 (「 Ⅲ. 応募する方へ 」参照)	研究機関が行う手続 (「 Ⅳ. 研究機関の方へ 」参照)
令和6(2024)年 1月11日(木) 公募開始		<p>【必要に応じて行う手続】</p> <p>①e-Rad 運用担当から e-Rad の研究機関用の ID・パスワードを取得(既に取得済の場合を除く) ※ ID・パスワードの発行に2週間程度必要。</p> <p>②e-Rad への研究者情報の登録等</p> <p>③研究代表者に ID・パスワードを発行(既に発行済みの場合を除く)</p>
	<p>①応募書類を作成 (研究機関から付与された e-Rad の ID・パスワードにより、科研費電子申請システムにアクセスし作成)</p> <p>②研究組織に研究分担者を加える場合の手続</p>	<p>④所属する研究者が、研究分担者となることを承諾</p>
	<p>③所属する研究機関に応募書類を提出(送信) (当該研究機関が設定する提出(送信)期限までに提出(送信))</p>	<p>⑤・「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」に基づく「体制整備等自己評価チェックリスト」の提出</p> <p>・「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づく「取組状況に係るチェックリスト」の提出</p> <p>※令和5(2023)年4月以降に、別途、両チェックリストを提出している場合は、改めて提出する必要はありません。</p> <p>提出期限：3月13日(水)</p>
<p>3月13日(水) 午後4時30分 提出期限(厳守)</p>		<p>⑥応募書類の提出(送信)</p>

注1) 研究代表者が所属する研究機関に応募書類を提出(送信) (「研究代表者が行う手続」③) した後、当該研究機関は応募書類提出期限までに、日本学術振興会に応募書類を提出(送信) (「研究機関が行う手続」⑥) しなければなりません。ついては、研究代表者は「[Ⅲ. 応募する方へ](#)」3. 応募書類(研究計画調書)の作成・応募方法等」等を確認するとともに、研究機関が指定する応募手続等(研究機関内における応募書類の提出期限等)について、研究機関の事務担当者に確認してください。

注2) 研究者が科研費に応募するに当たっては、事前に、e-Rad に研究者情報が登録されていなければなりません。e-Rad への登録は研究機関が行うこととしていますので、応募を予定している者は、その登録状況について研究機関の事務担当者に十分確認してください。

注3) 研究機関は、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」に基づく「体制整備等自己評価チェックリスト」及び「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づく「取組状況に係るチェックリスト」を提出しなければなりません(「研究機関が行う手続」⑤)。提出がない場合には、当該研究機関に所属する研究者への交付決定を行いません。

注4) 研究分担者とともに研究組織を構成するに当たって、研究代表者は研究分担者となることの承諾を得る手続を電子申請システムで行う必要があります(「研究代表者が行う手続」②)。また、研究分担者は、所属する研究機関から研究分担者となることの承諾等を得る必要があります(「研究機関が行う手続」④)。

II. 公募の内容

研究分担者が所属する研究機関から当該研究課題の研究分担者となることの承諾等を得ていない場合、研究代表者は研究計画調書を研究機関に提出（送信）することができません。そのため、速やかに研究組織を構成してください（「[Ⅲ. 応募する方へ](#) 3. 応募書類（研究計画調書）の作成・応募方法等」参照）。

(2) 応募書類提出後のスケジュール（予定）

以下には、現時点のスケジュールを掲載しておりますが、交付内定の時期も含め変更が生じる可能性があります。スケジュールに変更が生じた場合は日本学術振興会ホームページ及び研究機関を通じて周知します。

国際先導研究		
令和6(2024)年	3月～11月	審査
	5月中旬	事前の選考結果の通知 ^{※1}
	9月中旬	ヒアリング研究課題選定結果の通知
	11月下旬	審査結果の通知 ^{※2} ・交付内定
令和7(2025)年	12月下旬	交付申請
	1月頃	交付決定、審査結果の開示、送金
	2月頃	採択研究課題の審査結果の公開

※1 事前の選考により不採択となった研究課題について、事前の選考による審査の終了後、審査結果を通知します。なお、応募件数が少ない審査区分においては事前の選考を行いません。

※2 国際先導研究の審査結果の通知は、交付内定と同日に行う予定です。

3. 審査等

(1) 科研費の審査について

科学研究費助成事業（科研費）では、次の点に留意して審査を行っています。

科学研究費助成事業（科研費）は、わが国の学術振興に寄与すべく、人文学、社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、学術研究を格段に発展させることを目的とする競争的研究費です。

学術研究は、研究者コミュニティが自ら選ぶ研究者が、科学者としての良心に基づき、個々の研究の学術的価値を相互に評価・審査し合うピアレビュー（Peer Review）のシステムにより発展してきました。

科研費にかかわる審査は、こうしたシステムの一翼を担う重要な要素です。そして、科研費の審査委員は、学術の振興のために名誉と責任あるピアレビューアーの役割を任されています。研究者同士が「建設的相互批判の精神」に則って行う科研費の審査は、学術研究の将来を左右すると言っても過言ではありません。このため、次の点に留意することとしています。

審査は応募者の研究を尊重することが前提です。審査委員は、応募者の研究計画が自身の専門分野に近いかどうかにはかかわらず、応募者がどのような研究を行おうとしているのかを理解し、その意義を評価・審査することとしています。また、科研費の審査は研究課題の審査ですので、研究計画調書の内容に基づいて研究計画の長所（強い点）と短所（弱い点）を見極めて評価するとともに、審査意見ではそれらを具体的に指摘することとしています。

一方で、応募者は、自ら設定した課題の背景や経緯、国内外での位置づけ、新規性、独自性、創造性や具体的な研究計画が審査委員に分かるように研究計画調書に記載することが求められています。

審査委員と応募者がこのような姿勢で審査に臨むことにより、ピアレビューによる科研費の審査が健全に機能します。

科研費の審査委員としての経験は、学術的視野をさらに広げる貴重な機会でもあります。そして、学術コミュニティ全体が「建設的相互批判の精神」に則った審査を積み重ねることで、日本の学術水準の向上につながることを期待されます。

(2) 審査の方法等

科研費の審査は、応募書類（研究計画調書）に基づき、日本学術振興会科学研究費委員会でを行います。また、審査は非公開で行われます。

その際、応募者は審査が非公開で行われることを前提に未発表の研究結果や研究アイデア等を研究計画調書に記載していることから、審査委員には以下のように、守秘義務の徹底をお願いしています。

- ・ 応募者の知的資産の保護及びピアレビューシステムの公正性を確保するため、研究計画調書の内容等、審査に当たって知り得た情報はいかなる形においても、上司、同僚や部下を含め、外部に漏らしてはならないこと。
- ・ 審査委員は審査で知り得た情報を自分の利益のために利用してはならないこと。
- ・ 審査資料の厳重な管理の徹底が求められること。

評価基準など、「評価ルール」（「科学研究費助成事業における審査及び評価に関する規程」）の詳細は、日本学術振興会科学研究費助成事業ホームページで確認してください。

URL : https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/01_seido/03_shinsa/index.html

本研究種目の審査は、人文社会、理工、生物の三つの分野別小委員会（以下「各系委員会」という。）において「書面審査」「合議審査」により以下のとおり実施します（「総合審査」）。

- ・ 「書面審査」は、各系委員会ごとに、原則8名～14名の審査委員が研究計画調書に加え、専門分野に近い研究者が作成する「審査意見書」及び「海外レビュー」（国内の研究機関に所属する審査意見書作成者及び海外の研究機関に所属する海外レビュー、各3名程度が作成）等に基づき行います。「海外レビュー」で付された評点が著しく低い応募研究課題は不採択とします。

※「書面審査」は、各系委員会による研究計画調書の一部を用いた「事前の選考」を行った上で行うことを基本とします（応募件数が少ない審査区分においては「事前の選考」は行いません。）。

- ・ 「合議審査」は、各系委員会の委員が合議審査の場で各応募研究課題について幅広い視点から議論により審査を行い、ヒアリングを行う応募研究課題を選定し、ヒアリングを行います。

※審査においては researchmap 及び科学研究費助成事業データベース（KAKEN）の掲載情報を必要に応じて参照する取扱いとしています（「[Ⅲ. 応募する方へ 5. 研究者情報の researchmap への登録について](#)」参照）。

(3) 審査結果の通知

- ① 事前の選考により不採択となった研究課題について、電子申請システムにより研究代表者及び研究機関に審査結果を通知します。
- ② ヒアリング研究課題の選定結果は、ヒアリング研究課題に選定された研究代表者及び全ての研究機関に通知します。
- ③ 審査結果に基づく採択、不採択については、電子申請システムにより研究代表者及び研究機関に通知します。
- ④ 採択された研究課題の研究代表者に対して、審査結果の所見を通知します。また、採択されなかった研究代表者には、系におけるおおよその順位を電子申請システムにより開示します。さらに、合議審査対象課題の研究代表者のうち、採択されなかった者に対して、上記と併せて、「審査結果の所見」を開示します。
- ⑤ 採択された研究課題については、審査結果の所見の概要を科学研究費助成事業データベース（KAKEN）等に公開します。

令和6(2024)年度 国際共同研究加速基金（国際先導研究） 研究計画調書

RESEARCH PROPOSAL DOCUMENT

GRANT-IN-AID FOR

FUND FOR THE PROMOTION OF JOINT INTERNATIONAL RESEARCH(INTERNATIONAL LEADING RESEARCH(FY2024))

令和 6年XX月XX日

研究代表者氏名 Principal Investigator (PI)	(フリガナ)					
	(漢字等)					
	Name (in Roman Letters)					
所属研究機関 Research Institution						
部 局 Academic Unit (School, Faculty, etc.)						
職 Position						
研究課題名 Title of Proposed Research Project						
研究の要約 Research Abstract						
研究経費 千円未満の端数は切り捨てる Research Expenditure Round off fractions smaller than 1000 yen Converted to U.S.\$ at 1 Dollar = 100 Yen	研究経費 (千円) Research Expenditure [U.S.\$]	使用内訳 (千円) Breakdown [U.S.\$]				
		設備備品費 Equipment Costs	消耗品費 Consumables Expenses	旅費 Travel Expenses	人件費・謝金 Personnel cost/Honoraria	その他 Miscellaneous Expenses
	研究費 Research Funding	[]	[]	[]	[]	[]
	人材育成費 Expenses for Human Resources Development	[]	[]	[]	[]	[]
総計 Sum Total	[]	[]	[]	[]	[]	

研究組織（研究代表者及び研究分担者）

Project Members List (Principal Investigator (PI) and Co-Investigator (Co-I))

	氏名（年齢） Name (Age)	所属研究機関 Research Institution 部局 Academic Unit (School, Faculty, etc.) 職 Position	学位 Academic Degree 役割分担 Role in this Project	令和6年度 研究経費 (千円) Research Expenditure for FY2024 [U.S.\$]	エフォート Effort (%)
研究代表者 PI	00000000 (00)			[]	
研究分担者 Co-I	00000000 (00)			[]	
研究分担者 Co-I	00000000 (00)			[]	
				[]	

研究組織（研究代表者及び研究分担者）

Project Members List (Principal Investigator (PI) and Co-Investigator (Co-I))

氏名（年齢） Name (Age)	所属研究機関 Research Institution 部局 Academic Unit (School, Faculty, etc.) 職 Position	学位 Academic Degree 役割分担 Role in this Project	令和6年度 研究経費 (千円) Research Expenditure for FY2024 [U.S.\$]	エフォート Effort (%)
			[]	
			[]	
			[]	
合計 00 名 Total Number of Members: 00	研究経費合計 Total Research Expenditure		9,999,999 [99,999,999]	

研究協力者人数	00 名
---------	------

海外共同研究者

Overseas Joint Researcher(s)

氏名 Name	所属研究機関 Research Institution	職 Position	所属機関の国(地域)名 Country(Region) of the Research Institution

国際共同研究の枠組みと意義の概要（1頁以内）

研究計画調書（様式S-64(2)）に記載した国際共同研究の枠組みと意義について、その概要を1頁以内で簡潔にまとめて記述すること。

研究計画調書作成に当たって留意すること

○本留意事項の内容を十分に確認し、研究計画調書の作成時にはこのテキストボックスごと削除すること○

留意事項①：

1. 国際先導研究では、応募件数が多い場合に本様式に研究計画調書（Web 入力項目）の前半部と S-64(3)及び S-64(L)を加えた「研究計画調書（概要版）」のみによる事前の選考を行います。

留意事項②：

1. 作成に当たっては、研究計画調書作成・入力要項を必ず確認すること。
2. 本文全体は11ポイント以上の大きさの文字等を使用すること。
3. 各頁の上部のタイトルと指示書きは動かさないこと。
4. 本様式は合計3ページとすること。

○本留意事項の内容を十分に確認し、研究計画調書の作成時にはこのテキストボックスごと削除すること○

研究計画の概要（1頁以内）

研究計画調書（様式S-64(2)）に記載した研究計画について、その概要を1頁以内で簡潔にまとめて記述すること。

人材育成計画の概要（1頁以内）

研究計画調書（様式S-64(2)）に記載した人材育成計画について、その概要を1頁以内で簡潔にまとめて記述すること。

Framework and Significance of International Joint Research (no more than 5 pages)

Please describe the framework and significance of the international joint research incorporating the following points. You may switch the order of items and/or the order of descriptions in each item if necessary.

- The level of advancement and future potential of the proposed research domain or field.
- Prospects of the project having a global impact and making a scientific contribution to the research domain or field.
- Necessity and importance for the project to have large-scale and long-term support.
- Concrete description of the participating researchers and their roles within the whole group, made up of the Japan-side research team comprising the applicants and postdocs and/or doctoral students, and the overseas research team.
- The applicants' achievements and/or experience in international collaboration.
- The superiority of the group of applicants, in particular the research capacity of the international joint researcher(s), and the significance of doing the proposed research via international collaboration.
- The state of preparation toward implementing the international joint research plan.

Notes to observe when preparing the Research Proposal Document

*Delete this entire text box when completing this form.

1. *Read the "Procedures for Preparing and Entering a Research Proposal Document" when preparing this form.*
2. *This form is to be written in English.*
3. *Complete the form using font size 10-point or larger.*
4. *The title and instructions on the upper part of each page should be left intact.*
5. *This form is to be written in no more than 14 pages.*
6. *Please bear in mind that this form is to be read by overseas reviewers as well as Japanese reviewers.*

Research Plan (no more than 5 pages)

Please describe the contents of the research plan incorporating the following points. You may switch the order of items and/or the order of descriptions in each item if necessary.

- Background of the proposed research including the circumstances leading to this research proposal, global research trends related to the proposed research, and the positioning of the research within the relevant domain or field.
- Research objectives and methodologies.
- "Key research questions or issues" at the core of the research plan, and the originality and creativity of the research.
- Details of the applicants' ability to conduct the research, the research environment, and the state of preparation toward implementing the research project.

Plan for Fostering Early-career Researchers (no more than 4 pages)

Please concretely and clearly describe the plan for fostering early-career researchers incorporating the following points.

- A concrete plan for fostering early-career researchers, including dispatch of those researchers to overseas research institutions and international exchange (names of overseas research institutions, significance and necessity of dispatch to these institutions, dispatch period, future prospects after returning, etc.). List the names of the participating postdocs and doctoral students of the Japan-side team, up to about the second fiscal year of the project if they have already been specified. The status of coordination of the plan with overseas counterpart teams should also be clarified.
- The roles and positions of early-career researchers in conducting the research project, and details of measures to be taken to support their self-reliance.
- Other unique ideas and initiatives.

Application Requirements that PI must meet (no more than 2 pages)

Please clarify that the PI is a researcher who has a record of excellent research achievements and an international research network. Provide evidence to verify these facts.

Specifically, show that the PI has achieved and published internationally outstanding research results, providing evidence such as the number of citations that have ranked his/her coauthored international joint papers (published in and after 2018) among the world's top 10%. The PI should be the primary author of the paper who is, for example, the first author or corresponding author, depending on the research field and the guidelines of the journal(s) you mention.

Depending on the characteristics of the research area, "internationally outstanding research results" can also include the PI's experience as a representative of a large international collaboration (e.g., being a spokesperson who plays a central role in the project and is responsible for the whole operation of the project), as the author of prominent academic books (published in and after 2013) highly appraised within the international research community, and the like.

Notes to observe when preparing the Research Proposal Document

*Delete this entire text box when completing this form.

1. *Read the "Procedures for Preparing and Entering a Research Proposal Document" when preparing this form.*
2. *This form is to be written in English.*
3. *Complete the form using font size 10-point or larger.*
4. *The title and instructions on the upper part of each page should be left intact.*
5. *This form is to be written in no more than 2 pages for "Application Requirements that PI must meet," no more than 2 pages for the PI's CV, and also no more than 2 pages for each Co-I's CV.*
6. *Please bear in mind that this form is to be read by overseas reviewers as well as Japanese reviewers.*

CURRICULUM VITAE (CV) (no more than 2 pages)

1. PI	Name	
	Date of Birth	
	Research Institution, Academic Unit (School, Faculty, etc.) & Position	
	Academic Degree	

2. Roles in this Project

3. Research Career and Experience

CURRICULUM VITAE (CV) (no more than 2 pages for each Co-I)

1. Co-I	Name	
	Date of Birth	
	Research Institution, Academic Unit (School, Faculty, etc.) & Position	
	Academic Degree	

2. Roles in this Project

3. Research Career and Experience

所属研究機関からの支援の内容等（1頁以内）

研究代表者等の所属研究機関から本国際共同研究に対して行われる支援の具体的内容（海外渡航支援、機関間協定、研究スペースの提供等）及び期待される効果について、また、大規模・長期間の国際共同研究に係る研究遂行や人材育成等の経験を研究機関に還元する方策について、合わせて1頁以内で記述すること。

研究計画調書作成に当たって留意すること

○本留意事項の内容を十分に確認し、研究計画調書の作成時にはこのテキストボックスごと削除すること○

留意事項：

1. 作成に当たっては、研究計画調書作成・入力要項を必ず確認すること。
2. 本文全体は11ポイント以上の大きさの文字等を使用すること。
3. 各頁の上部のタイトルと指示書きは動かさないこと。
4. 本様式は合計3ページとすること。

○本留意事項の内容を十分に確認し、研究計画調書の作成時にはこのテキストボックスごと削除すること○

人権の保護及び法令等の遵守への対応（1頁以内）（公募要領参照）

本研究を遂行するに当たって、相手方の同意・協力を必要とする研究、個人情報の取扱いの配慮を必要とする研究、生命倫理・安全対策に対する取組を必要とする研究など指針・法令等（国際共同研究を行う国・地域の指針・法令等を含む）に基づく手続が必要な研究が含まれている場合、講じる対策と措置を、1頁以内で記述すること。

個人情報を伴うアンケート調査・インタビュー調査・行動調査（個人履歴・映像を含む）、提供を受けた試料の使用、ヒト遺伝子解析研究、遺伝子組換え実験、動物実験など、研究機関内外の倫理委員会等における承認手続が必要となる調査・研究・実験などが対象となります。

該当しない場合には、その旨記述すること。

人材育成費の割合が7割の標準に満たない場合の対応（1頁以内）

人材育成のための経費の割合が応募総額の7割の標準に満たない場合、その場合でも人材育成が十分可能である理由を1頁以内で記述すること。
該当しない場合には、その旨記述すること。

Letter of Intent

I hereby agree to be an “International Joint Researcher” in the following titled research project to be conducted under the “Fund for the Promotion of Joint International Research (International Leading Research)” category of the Grants-in-Aid for Scientific Research (KAKENHI), provided that the project is selected. I give my consent for this letter to be used as material in conducting the project’s application review.

Title of Research Project: _____

Name of Principal Investigator: _____

Name of Signee
(International Joint Researcher): _____

Research Institution: _____

Position: _____

Signature: _____

Date: _____

Describe the following in 3 pages. (Do not delete this instruction.)

- The outline of the proposed International Joint Research, your role in it as an international collaborator, and the details of your role.
- Your motivation to participate in the proposed research project with the applicants.
- The state of preparation toward implementing the proposed joint research project, such as securing research grants or a budget, research space and/or facilities for the proposed project, your plan for receiving (dispatching) researchers from (to) the Japan side, and support available for accepted researchers (e.g. providing access to research facilities in your institution).

CV of the International Joint Researcher (no more than 2 pages)

(金額単位：千円)

令和6年度						
	研究経費	使用内訳				
		設備備品費	消耗品費	旅費	人件費・謝金	その他
研究費						
人材育成費						
総計						
令和7年度						
	研究経費	使用内訳				
		設備備品費	消耗品費	旅費	人件費・謝金	その他
研究費						
人材育成費						
総計						
令和8年度						
	研究経費	使用内訳				
		設備備品費	消耗品費	旅費	人件費・謝金	その他
研究費						
人材育成費						
総計						
令和9年度						
	研究経費	使用内訳				
		設備備品費	消耗品費	旅費	人件費・謝金	その他
研究費						
人材育成費						
総計						
令和10年度						
	研究経費	使用内訳				
		設備備品費	消耗品費	旅費	人件費・謝金	その他
研究費						
人材育成費						
総計						
令和11年度						
	研究経費	使用内訳				
		設備備品費	消耗品費	旅費	人件費・謝金	その他
研究費						
人材育成費						
総計						
令和12年度						
	研究経費	使用内訳				
		設備備品費	消耗品費	旅費	人件費・謝金	その他
研究費						
人材育成費						
総計						

(1) 研究費

(金額単位：千円)

年度	費目	研究費(外国)		研究費(国内)	
		事項	金額	事項	金額
研究費の説明					
<p style="height: 250px; margin: 0; padding: 0;"> </p>					

(2) 人材育成費

(金額単位：千円)

年度	費目	事項	金額

人材育成費の説明